

## 平成 29 年度山梨県南都留地域教育フォーラム提案書

第 4 分科会

山梨県立吉田高等学校

実習助手 放送部顧問 島袋あゆみ

### 『地域と共に未来を生き抜くための活動』

#### 1. 放送活動とは

目的 (NHK 杯全国高校放送コンテストより)

現代に生きる高校生の豊かな人間性の育成と、未来への展望をもつ人間としての成長をめざし、校内放送活動をメディアリテラシーの実践として位置づけ、情報発信としての放送活動の発展をはかる。

ねらい

- (1) 美しく豊かな日本語を大切にできる心情を育て、あわせて話す力、表現する力を高める。
- (2) 情報発信者としての自覚を高め、あわせて創造性を育てる。
- (3) 社会との関わりに目を向け、放送の果たす役割を学ぶ。
- (4) 人間尊重の心を培い、国際理解を深める放送の働きを確かめる。
- (5) 学園生活の中にうらおいを育て、心のふれあいの場をつくる。

研究主題 (統一テーマ) 「私たち高校生と放送」

高校生の連携、先生方とのきずな、地域や社会への結びつきを、日常の生活の中で考え、主体的に放送活動に展開すること。

#### 2. 吉田高校放送部の活動のねらい (人間性を育む)

放送活動を通じて

- ① 目配り 気配り 心配りができる部員を育てる
- ② 心と体を鍛える (体育会系文化部を目指す)
- ③ 規範意識の確立

#### 3. 吉田高校放送部の地域との交流活動と成果

(市民の皆様 FM 富士五湖 富士吉田市役所 CATV 富士五湖との連携)

放送部の活動は、アナウンスや朗読活動や行事の司会進行など校内での活動がほとんどであった。そんな中、活動のテーマを地域に向けて自らの足で取材し、取材したことを知ってもらうために、テレビやラジオの公共電波や放送コンテストなどで発信していくことを目標に、吉高放送部の新たな活動が始まった。

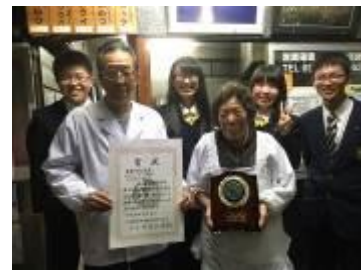
平成 27 年度

富士吉田市の朗読ボランティアの会の朗読会に出演した時、富士吉田市在住の盲導犬ユーザーの方に声をかけていただいた。それをきっかけにユーザーさんとの交流が始まった。富士吉田市と都留市在住の 2 人の盲導犬ユーザーさんを学校に招いてお話を聞き、実際に吉高周辺を歩いて目の見えない見えにくい方の声 (日常の生活の中で困っていること) を聞いた。「声をかけてほしい」盲導犬とユーザーさんの悩みを知ってもらうためのラジオ CM を制作して、FM 富士五湖で定期的に放送した。



#### 平成 28 年度

50 年続く富士河口湖町のお総菜店「ふるや」の店主 幸さんと息子さん取材した。半年近くお店に通い 50 年の歴史や店主 幸さんのコロッケ作りに対するこだわり、息子さんの思いに触れた。また生徒自ら県内外の観光客の方や海外からのお客さんに積極的に話しかけてコミュニケーションをとった。この半年間の交流を 5 分間のビデオメッセージにまとめ、全国の高校生の前で上映した。(平成 29 年 8 月、全国高等学校総合文化祭宮城大会ビデオメッセージ部門山梨県代表)



富士河口湖町「お総菜の店」ふるやでの取材と県高校芸術文化祭 芸術文化祭賞受賞の報告 (右)

平成 28 年 7 月、富士河口湖町の NPO 法人富士山アウトドアミュージアム代表の舟津宏昭さんと出会い富士北麓地域で発生している野生動物の交通事故死「ロードキル」調査に同行した。舟津さんへの取材を行い、現状を学び、ロードキル調査にも同行した。



初めは決められた質問しかできなかった。親交を深めていくうちに舟津さんの熱い思いを引き出すことができた。取材は 1 度だけでは、より深い思いは語ってもらえない。相手の答えに対して、どんな言葉をかけて思いを引き出せばよいのか、生徒は試行錯誤しながら積み上げていった。また、このロードキル調査では動物の事故現場を目の当たりにすることも多く、命の重さを実感した経験だった。

平成28年10月より富士吉田市役所、CATV富士五湖、吉田高校放送部との連携番組制作を行っている。毎月1回、月末に広報ふじよしだの中から高校生が選んだトピックスを映像化してCATVで放送する取り組みである。



富士吉田市役所の各課を取材して高校生目線で質問した。(子育て支援 富士山の防災 吉田の水道など) 毎回テーマを変えて取材している。富士吉田市役所企画部市民協働推進課の方との打ち合わせは基本的に顧問は関わらないようにしている。テーマ選びや質問内容などは生徒が考えて決めている。高校生ならではの視点や演出が生まれ、新鮮な雰囲気の番組になっている。



書き言葉をはなし言葉にする作業はとても時間がかかる。漢語から和語に変換するためのスキルをこの取材を通じて学んでいる。経験豊富な3年生が2年生1年生にお手本をみせて、その背中を見ながら成長している場でもある。

#### 平成29年度

平成29年4月より野生動物の交通事故死「ロードキル」の取り組みを外へ伝える活動を行った。ロードキルの現状を伝えるための活動を再開した。吉高放送部オリジナル名刺を作成して富士山アウトドアミュージアムのチラシと一緒に「富士山学」で吉高生や先生方に配布した。また河口湖湖畔で観光客の方にも配布した。

野生動物の交通事故を発見したらどうすればよいか、また野生動物と衝突してしまったらどうすればよいか、通報のためのラジオCMを制作してFM富士五湖で定期的に放送してもらった。

深夜のタクシードライバーや吉高の保護者からの通報事例があり、情報発信者としての放送活動を発展することができた。



富士山アウトドアミュージアム舟津さんとの活動の成果（ひとつの例として）

長年放送部の顧問として生徒を指導しているが、総じて放送活動は人間活動であるため、終わりはないと考えている。現3年生の放送部員の進路として獣医学部に進学して獣医になり、舟津さんの手助けをしたいと思っている生徒や多言語を学ぶために、国公立大学の言語文化学部や国際社会学部に進学して通訳になり、世界各国から来県した観光客の方に富士山や山麓の現状を知ってもらいたいと思っている生徒もいる。

3年間の吉高放送部での放送活動が、生徒の将来の進路目標や進路実現の一助になっている。そのことがとても意味のある活動だと思う。



舟津さんを1年間取材したドキュメント番組（7分）は平成29年度第64回NHK杯全国高校放送コンテスト（7月に東京都で開催）テレビドキュメント部門573作品中の上位20作品に入賞した。8月にNHKのEテレでNHK杯放送コンテストの特集が全国放送された。その中で、富士山麓の野生動物交通事故死「ロードキル」の現状を伝えること、また「森の中におじゃまします」という気持ちで富士山麓に遊びに来てほしいという舟津さんの思いを全国の高校生や視聴者の皆様にテレビ番組を通じて伝えることができた。



NHK杯全国高校放送コンテスト 平成29年7月 東京NHKホールにて

#### 4. これから

生徒が日常生活の中で考え、主体的に放送活動に展開するためには、町に住んでいる皆さま、官公庁、CATVやラジオ局の協力が不可欠だ。吉高放送部は、地域とのつながりがなければ活動できない。この放送活動が一時的なもので終わるのではなく、中長期的に実践していくことはとても必要なことだと言える。学校行事や模擬試験など吉高生は多忙ではあるが、限られた時間の中でメリハリをもって活動していく力を培うことも大事だ。

今後は、活動の記録として制作したビデオ番組やラジオ番組をもっと地元の方や小中学生に見ていただけるような機会を提供して交流を図りたい。そうすれば、情報発信者としての放送活動が更に展開できるのではないかと思います。